

永田クラブ
経済研究会
消費者問題研究会
厚生労働省記者クラブ
農林水産省記者クラブへ貼り出し

公開

平成22年8月27日
内閣府食品安全委員会事務局

平成22年度食品健康影響評価技術研究成果発表会 の開催について

食品安全委員会では、食品健康影響評価技術研究の成果の普及及び活用を促進することを目的に、下記のとおり平成21年度に終了した課題について成果発表会を開催します。

記

- 1 日時 平成22年10月5日（火）14：00～16：30
- 2 会場 食品安全委員会中会議室
（東京都港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル22階）
- 3 対象 食品安全に関する研究に関心のある方ならどなたでも参加できます。
（無料）

4 プログラム（予定） 平成21年度終了課題のうち5課題を発表

- (1) 毒性データの不確実性とヒトへの外挿法に関する研究（主任研究者：長谷川隆一）
- (2) 食用動物からヒトに至る薬剤耐性遺伝子の伝播の解明と評価手法の開発（主任研究者：青木宙（発表者：廣野育生））
- (3) 遺伝子組換え食品等のアレルゲン性・腸管免疫影響のインビトロ評価系の開発（主任研究者：手島玲子）
- (4) 日本人の生体試料を用いた鉛・カドミウム等有害元素摂取量の全国レベルでの推定（主任研究者：池田正之）
- (5) メチル水銀の継続的負荷による毛髪／血液水銀濃度比の個体差の解明」（主任研究者：佐藤洋）

*研究概要は食品安全委員会のホームページをご覧ください。

http://www.fsc.go.jp/senmon/gijyutu/21_jigo_hyouka.pdf

5 参加申込

参加をご希望の方は、別添の参加申込書に必要事項をご記入の上、FAX またはメールでお申し込みください。

①締切：平成22年10月1日（金）12：00

②FAX 送付先：03-3584-7391

③メール送付先：saori.hoya@cao.go.jp

【本件連絡先】

内閣府食品安全委員会事務局

情報・緊急時対応課 磯貝、保谷（ほうや）

電話：03-6234-1119又は1123

食品安全委員会について

食品安全委員会（委員長：小泉 直子（こいずみ なおこ））は、食品中に含まれる農薬や食品添加物などが健康に及ぼす影響を科学的に評価する機関（リスク評価機関）。7名の委員で構成され、14の専門調査会において、200名を超える専門委員の協力により、添加物、農薬、動物用医薬品、化学物質・汚染物質、器具・容器包装、微生物・ウイルス、プリオン、かび毒・自然毒等、遺伝子組換え食品等、新開発食品、肥料・飼料の分野のリスク評価を行っています。

(別 添)

参加申込書

平成22年度食品健康影響評価技術研究成果発表会

(平成22年10月5日(火)開催)

氏 名	勤務先等	備 考 (連絡先等)

○締 切：平成22年10月1日(金) 12:00

○FAX 送付先：03-3584-7391

*メールで申込まれる場合は、氏名及び勤務先等を下記アドレスにご連絡
ください。

○アドレス：saori.hoya@cao.go.jp

担当：情報・緊急時対応課調査係 保谷(ほうや)
連絡先：03-6234-1123

平成22年度 食品健康影響評価技術研究成果発表会

～ プログラム ～

平成22年10月5日（火）14：00～16：30

食品安全委員会中会議室

○司会：廣瀬雅雄（食品安全委員会委員）

○発表課題

①「毒性データの不確実性とヒトへの外挿法に関する研究」

（長谷川隆一（独）製品評価技術基盤機構）

②「食用動物からヒトに至る薬剤耐性遺伝子の伝播の解明と評価手法の開発」

（青木宙（東京海洋大学）、発表：廣野育生（東京海洋大学））

③「遺伝子組換え食品等のアレルギー性・腸管免疫影響のインビトロ評価系

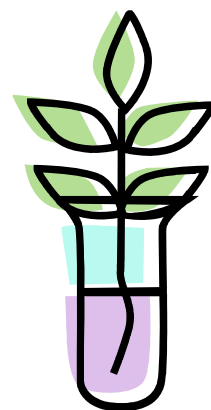
の開発」（手島玲子（国立医薬品食品衛生研究所））

④「日本人の生体試料を用いた鉛・カドミウム等有害元素摂取量の全国レベル

での推定」（池田正之（財）京都工場保健会）

⑤「メチル水銀の継続的負荷による毛髪／血液水銀濃度比の個体差の解明」

（佐藤洋（東北大学））



～ 発表者の紹介 ～



長谷川 隆一（はせがわ りゅういち）

（独）製品評価技術基盤機構技術専門職員、国立医薬品食品衛生研究所客員研究員
静岡薬科大学大学院薬学研究科博士課程（薬学博士 1978 年）。米国ミシガン州立大学研究員及び米国国立衛生研究所(NIH)の研究員を務め(1978～)、1981 年国立衛生試験所（現国立医薬品食品衛生研究所）に入所。同所総合評価研究室長、医薬安全科学部長を歴任。2010 年 4 月より現職（化学物質の安全性に関わる業務）。主な研究領域は脂質生化学、薬物体内動態、化学発がん機構、内分泌かく乱作用、市販後医薬品の安全性、新生児の毒性感受性及び化学物質のリスクアセスメント。



廣野 育生（ひろの いくお）

東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授
鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程修了（農学博士 1993 年）
主な研究領域は魚病学、魚介類免疫学、魚介類ゲノム科学。厚生労働省「薬事・食品衛生審議会臨時委員」（動物用医薬品部会員、動物用医薬品残留問題調査会員等）、学術誌 Fish and Shellfish Immunology の Editor（編集委員）。



手島 玲子（てしま れいこ）

国立医薬品食品衛生研究所代謝生化学部部長
東京大学薬学部（薬学博士）、1979 年国立衛生試験所放射線化学部に研究員として入所、1987～8 年米国 NIH 歯学研究所臨床免疫学部研究室に留学。1990 年から国立医薬品食品衛生研究所機能生化学部主任研究官、機能生化学部室長を経て 2007 年 10 月より現職。現在の専門は免疫生化学、アレルギー学。日本免疫毒性学会（評議員、編集委員、理事）、日本食品化学学会（編集委員、理事）。



池田 正之（いけだ まさゆき）

財団法人京都工場保健会常勤顧問 東北大学名誉教授 京都大学名誉教授
京都大学医学部医学科卒業後、東北大学医学部教授、京都大学医学部教授を務める。1996 年から財団法人京都工場保健会理事を就任し、2010 年より現職。
日本産業衛生学会、日本衛生学会（名誉会員）、日本トキシコロジー学会（名誉会員）。国際学術誌 Int Arch Occup Environ Health 編集委員、Toxicol Lett 編集委員。



佐藤 洋（さとう ひろし）

東北大学大学院医学系研究科教授
東北大学大学院医学研究科博士課程終了(医学博士 1979 年) 1979 年東北大学医学部助手、1981 年福島県立医科大学講師、1985 年北海道大学医学部助教授を経て 1989 年東北大学医学部教授。1998 年より現職。日本産業衛生学会指導医、日本衛生学会理事長、(社)環境科学会理事。